

豚流行性下痢（PED）ワクチンについて

全国的なPED発生により、手に入りにくい状況となっていました。ワクチンメーカーの増産により、ワクチンの発注ができるようになりました。

動物用医薬品販売業者への注文の際には、4月に実施した需要見込み調査数量の範囲で注文をお願いします。

獣医師に依頼する指示書は「1ヶ月間の必要数量」とし、獣医師の指示書に従って、妊娠豚にだけ使用してください。

ワクチンの効果を十分に引き出すためには、農場内をいつもきれいにして消毒を徹底するなど、日頃からの衛生管理が重要です。

国内販売されているPEDワクチン

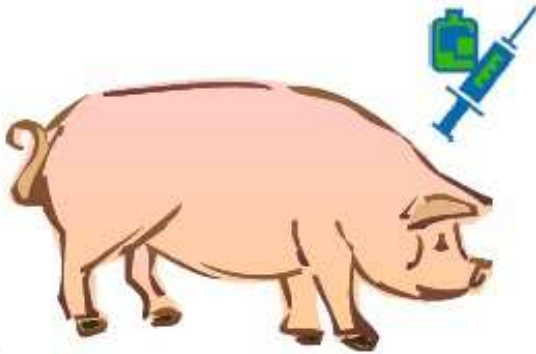
商品名称	日生研TGE・PED混合生ワクチン	日生研PED生ワクチン	スィムジェンTGE/PED
	豚伝染性胃腸炎(TGE)との2種混合生ワクチン	生ワクチン	豚伝染性胃腸炎(TGE)との2種混合生ワクチン
製造販売業者	日生研株式会社		一般財団法人化学及血清療法研究所
用法・用量	・妊娠豚に4ないし8週間隔 2回筋注 ・2回目の接種は 分娩予定日の約2週間前	・妊娠豚に2ないし8週間隔 2回筋注 ・2回目の接種は 分娩予定日の約2週間前	・妊娠豚に約3週間隔 2回筋注 ・2回目の接種は 分娩予定日の約2週間前
主な注意事項	生後7日齢未満の幼若豚は 注射対象から隔離		15日齢未満の子豚のいる 豚舎で使用しない

飼養家畜に、下痢、嘔吐、食欲不振、死亡等の症状が確認された場合には、直ちに家畜保健衛生所へ通報してください。

家畜の病気に関するお問合わせは山梨県東部家畜保健衛生所まで
電話・・・055-262-3166 FAX・・・055-262-3108
夜間の連絡は・・・090-5535-8005
土日・休日の連絡は・・・090-5535-8005 または090-5544-7868

豚流行性下痢(PED)ワクチンの正しい使い方

➤ ワクチンの特徴

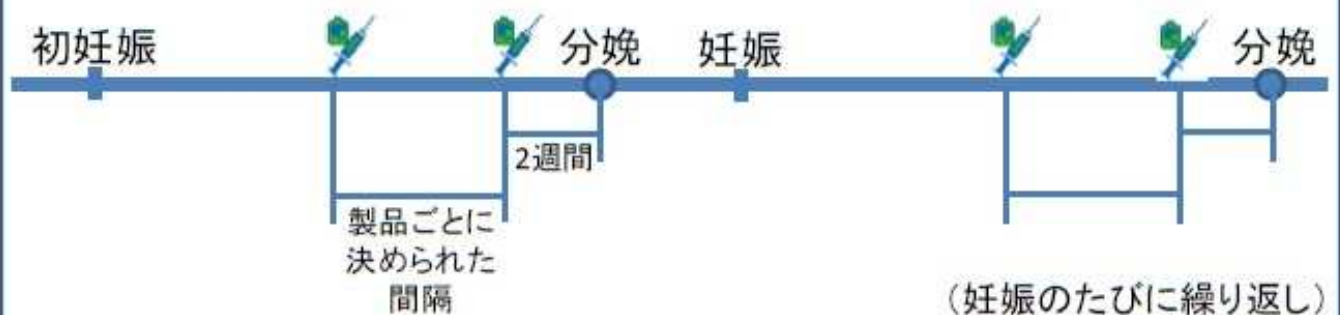


妊娠豚の筋肉内へ2回注射することにより、分娩後、**乳汁を飲んだほ乳豚**の発症を防いだり、症状を軽くすることができます。

➤ 正しい使い方

1. 用法・用量を守って、**分娩前の妊娠豚に2回注射**すれば、十分な効果が得られます。

注意: 子豚に注射しても効果はありません。



2. 子豚に免疫をつけるため、母豚が乳を十分出しているか、乳を飲んでいない子豚がいないかを確認しましょう。

3. ワクチンの効果を十分引き出すために、農場内をいつもきれいにし、消毒を徹底するなど、**日頃からの衛生管理**に気を付けましょう。

国内の発生(確定)状況は、農林水産省ホームページからご覧いただけます。

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/ped/ped.html>